

## 「生き生きサマーキャンプ」 事業報告

1 趣旨 海での活動を中心とした、海と森林、河川とのつながりを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高め、異年齢集団による共同生活によって、仲間と協力・挑戦し、きずなを深めながら、自主自立の心や生きる力を育てる。

### 2 期日

令和5年 8月17日(木)～20日(日)3泊4日

(学生リーダーは8月16日(水)～20日(日)4泊5日)

### 3 会場

大分県立香々地青少年の家 キャンプ場・宿泊棟

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

### 4 参加者

県内の小学5年生から中学2年生までの児童・生徒19名

(小5:5名、小6:11名、中2:3名)

### 5 活動プログラム

	午前	午後	夜
8/16(水) 〈学生研修〉	オリエンテーション 活動プログラム確認	いかだ活動の研修 いかだ製作	野外炊飯 ミーティング
8/17(木) 〈1日目〉	出合いの集い(自己紹介) 海の活動(海水浴等)	アイスブレイク、班結成 テント設営、薪割、野外炊飯	所内ナイトオリエンテーリング 班ミーティング
8/18(金) 〈2日目〉	朝食作り(ハムエッグ、おにぎり、みそ汁) 夷谷ロングウォーク	野外炊飯(焼きそば、お好み焼き)	班ミーティング
8/19(土) 〈3日目〉	朝食づくり(カートンドッグ) いかだ製作・いかだ活動	いかだ製作・いかだ活動 テント撤収	班ミーティング (いかだトライアル作戦会議・役割分担)
8/20(日) 〈4日目〉	いかだトライアルに向けての準備 いかだの修繕・練習	いかだトライアル 感謝手紙・色紙書き、別れの集い	

海での活動を中心とした山、川、海とのつながりを体感できるようなプログラム編成を行った。友だちと協力してきずなを深めていくことや活動に挑戦することに意識を持たせた。海の活動では、異年齢集団の中で活動を共にしたことで、子どもたちが早く打ち解け交流できた。活動内容は、バナナボートや水中トランポリン・海水浴で子どもたちは純粋に海を楽しむことができた。また、班で協力し、意見を出し合いながら自作のいかだを製作した。子どもたちは「協力・挑戦・きずな」の合い言葉を再確認して、いかだトライアルでは全員がゴールを目指す姿を見ることができた。

また、夷谷ロングウォークや地域の施設を利用することで、森林の中に心身を癒やせる場所があることを知

り、それを体感できるプログラムになった。

全プログラムを通して、班の仲間と共に協力する場面や自分自身の力を発揮する機会を設け、自主的・自発的に取り組めるようにした。

## <1日目> 出会いと交流 ～仲間づくり～

### ☆活動の様子

- ・自己紹介後、互いにキャンプネームを呼び合った。
- ・最初の海の活動。2グループに分かれ水上トランポリンとバナナボートを交代で行った。休憩後、全員海水浴に取り組んだ。
- ・新聞紙を使い、班で協力するアイスブレイクを行った。自分の意見を言い、貼り合わせながら協力できた。テント設営も説明を聞き、組立てることができた。
- ・野外炊飯でカレーライスを作った。役割分担を行い、スタートした。自分の役割を果たし、協力する姿が見られた。夕日を背景にカレーライスを食べて、全員満足の様子だった。
- ・ナイト探険では、敷地内に置かれたミッションに取り組んだ。
- ・班ミーティングでは、1日の振り返りを行い、日程の確認・目標などを話し合うことができた。



### ☆指導のポイント

- ・参加者の不安を軽減し、集団に馴染めるよう学生リーダーを中心に笑顔と積極的な声かけを意識した。
- ・班のメンバーが早く馴染み、所属感をもてるように海の活動や野外炊飯、所内ナイトオリエンテーリングなど班で協力する場面を多く設定した。
- ・振り返りの時間に、翌日の目標を考えさせ、しおりに記入させた。

## <2日目> 山、川、海の自然に親しむ ～協力・団結して夷谷に挑戦～

### ☆活動の様子

- ・タクシーで旧三重小まで移動する。あいにくの悪天候で登山からロングウォークに変更する。雨の中、夷の展望台まで1班からスタート。途中激しい降雨の中、休憩しながらゴールを目指す。小学生には長い道のりであったが、全員で目的地に到着できた。中学生が小学生を励ます場面も見られ、少しずつ仲間意識やきずなを感じることができた。「頑張って」「気をつけて」など班の中で声かけする姿が多く見られた。
- ・悪天候のため夷谷公園での宿泊は中止し、キャンプ場に戻る。



テント周辺や荷物を整備して、野外炊飯の焼きそばとお好み焼きを調理。焦げないように調理して全員ほぼ完食できた。

- ・班ミーティングでは、1日の振り返りや班で協力できたこと、自分が挑戦できたことなど班の中で1人ずつ発表できた。

#### ☆指導のポイント

- ・学生サポーターには支援しすぎず、子どもの自主性を大切にしながら、言葉かけの工夫や距離感などを考慮して活動させるように確認。
- ・班の一員として係活動や自分の役割を果たせるように支援した。
- ・ロングウォークは子どもの体調やペース配分などを考えながら進み、休憩や水分補給など適時行った。



## <3日目> 仲間と協力・きずなを深める ～オリジナルのいかだを作ろう～

#### ☆活動の様子

- ・朝食はカートンドッグ。アルミホイルでパンを包んで牛乳パックに着火。熱々のソーセージパンの完成。全員ほぼ完食した。
- ・いかだ製作では、自分たちの班で必要な資材を選び、切ったり、結んだりしながら取り組むことができた。
- ・事前に製図して確認する子どももいた。必要に応じて、ペットボトルを貼り付けたり、天板に穴を開けてもらったりしながら取り組めた。
- ・製作後、海に数回いかだを出して乗ってこぐ練習をする姿も見られた。修繕を繰り返しながらいかだを仕上げていった。
- ・班ミーティングでは翌日のいかだトライアルの開閉会式の役割分担や工夫のポイント、感想発表などの準備を行った。

#### ☆指導のポイント

- ・指導者は製作の方法や手助けはほぼ行わず、子どもたちの自主性や協力を重視して見守りながら製作支援を行った。
- ・子どもたちが自分たちで作って達成感を持てるように取り組ませた。
- ・いかだトライアルの開閉会式の中で、子どもが発表できる機会をもって、活躍の場面が増えるように取り組んだ。



## <4日目> いかだトライアル・振り返り・別れ ～仲間に感謝を伝えよう～

### ☆活動の様子

- ・いかだトライアルの開会式まで、自作のいかだを修繕や試運転を繰り返して、班で目標達成のゴールを目指した。
- ・開会式では、いかだを作っていく中で、班で工夫した点を発表することができた。
- ・制限時間がある中で、全部の班が時間内にゴールでき笑顔で写真撮影ができた。
- ・振り返りでは、4日間の思い出や仲間への感謝のメッセージ作り、交換して色紙に添付した。
- ・別れの集いでは、活動を振り返り協力できたことや楽しかったことなどを発表した。



### ☆指導のポイント

- ・全員で協力してゴールすることを意識させて取り組ませた。
- ・子どもたちがいかだトライアルに楽しく取り組めるように、盛り上がる応援や言葉かけをして、雰囲気作りを行った。
- ・いかだの運搬も、班で協力して取り組めた。
- ・閉会式では、全員が発表する機会を持ち、思っていることを表出させる場面設定ができた。
- ・別れの集いでは学生サポーターへ色紙をプレゼントし、感謝を伝える場とした。



## 7 参加者の声

### (子ども)

- ・ロングウォークでいつもなら文句を言って歩くけど、班の人と歩くことで長かったけどとても楽しかった。挑戦できてよかった。
- ・夷谷の景色がとてもきれいだった。
- ・初めて会ったことのない人に会って、最初はとても緊張して話しかけることができなかったけど、勇気を振り絞って話しかけることができた。私はいつも1人でやってしまうからみんなと協力できてよかった。
- ・野外炊飯のカレーライスが上手に作れた。協力して作れて楽しかったしおいしかった。
- ・雨の中歩いたのはとてもきつかったけど、温泉に入ってめっちゃ気持ちよかった。お好み焼きと焼きそばをひっくり返すのが楽しかったし、おいしかった。夕日がきれいだった。
- ・初日のナイトオリエンテーリングはとってもこわかったけど、思い出になった。
- ・いかだづくりは初めてだったけど、班で協力してできあがった。

- ・友だちと一緒にいかだを作るととても楽しかった。レースも力を合わせてゴールできてよかった。
- ・今回のキャンプで、友だちがたくさんできました。
- ・もう少し周りを見て、メンバーに楽しかったといってもらえるように行動したかった。

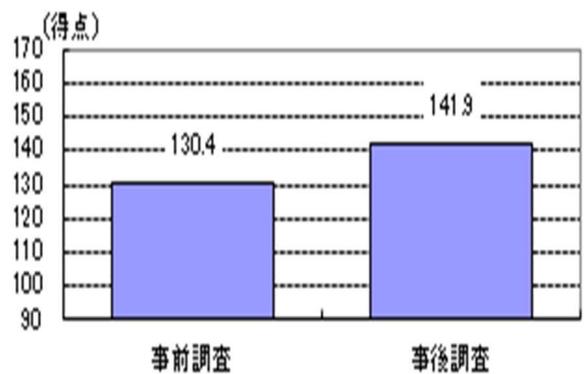
(学生ボランティア)

- ・夷谷ロングウォークで少し弱音を吐く子どももいたが、励ましながらゴールできたときは達成感があった。子どももうれしそうな表情を見て自分もうれしくなった。
- ・初日、最初に海の活動があり体を動かす活動で仲良くなっていくのを感じた。
- ・子どもたちの成長に感動した。
- ・いかだを製作していく中で、意見がぶつかり合うこともあったが、お互いの気持ちを伝えあってつながりが強くなっていくのを感じた。
- ・最初はどこまで子どもと関わっていいのか戸惑ったけど、活動を通して距離感が縮まっていくのを感じることができた。

6 成果

- ・初日から、友だちと協力してきずなを深めていくことや活動に挑戦することに意識を持たせたことで、子どもたちは前向きに活動できた。
- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的な能力が 6.3 ポイント、徳育的能力が 3 ポイント、身体的能力が 2.4 ポイント、生きる力は 11.5 ポイント向上。
- ・参加者の発達課題に適したグループ活動を多く設定できた。仲間と共に協力したり、自分の力を発揮したりする場が増え、協調性や思いやりの心、他者を気遣う心などが育ったと考えられる。
- ・職員の役割分担の明確化により、4日間スムーズに運営ができた。

生きる力の変容



7 課題

- ・いかだ製作において、班ごとに進捗状況の差ができ、どこまで指導や支援するのかを職員で意思疎通がより必要である。
- ・身の回りの整理整頓や食事後のゴミの片付けなど指導や支援する必要がある。参加者が分かりやすいような指示や片付けの方法などを可視化したり、ゴミ袋の配置をしたりすることで円滑に取り組むことができる。
- ・悪天候のため、活動計画や宿泊場所の変更があった。雨天プログラムを事前に計画する必要もあり、臨機応変に対応できるように、事前にシミュレーションを十分に行う必要がある。
- ・最終日の振り返りの中で、友だちへの感謝のメッセージや大学生への色紙作成など十分な時間の確保ができなかった。